



●パリッシュ医療レポート

つき指はキチンと治せよう！ すぐその足で病医院へ！！

スポーツの秋。体を動かす機会が多くなるこの時期は、怪我を負うことも増えてきます。そんな中から「つき指」について日本手の外科学会会員・長谷部先生にお話をうかがいました。



長谷部 了院長  
プロフィール

昭和61年、群馬大学医学部を卒業し群大整形外科教室に入局。手および肘の手術を多数経験する。平成10年「はせべ医院」を開院。日本手の外科学会会員・日本リウマチ財団登録医

「どのよう治療すれば良いのでしょうか。」

長谷部 「つき指」だからとおろそかにして、湿布でもまいておけばいいと安易に考えがちですが、得てして骨折や靭帯損傷など大きな怪我を見逃すものです。初期治療を誤ると、指の関節が一生涯がらなくなったり、慢性的な痛みを残してしまう場合が多いのです。ですから、つき指をしたなら、まず、整形外科医の診察を受け、レントゲン撮影で骨折などがないかどうかを確認し適切な治療を受けましょう。

「では、具体的にどのような外傷があるのですか。」

長谷部 ポールや物が強い衝撃で指先にぶつ

かると、指の第一関節が伸びなくなり、おじぎをした状態になってしまうことがあります。これは「マレットフィンガー」と呼ばれる外傷で、靭帯損傷による場合と剥離骨折による場合とがあります。その状態により、ギブスを巻いたり手術による治療を行います。

第二関節の横側面に痛みや腫れ、ぐらつきがある場合は「側副靭帯損傷」が考えられます。一般的にぐらつきが小さい場合はギブスなどによる固定が望ましいのですが、ぐらつきが大きい場合は靭帯の完全断裂が考えられるので手術をする場合もあります。また、第二関節の手のひら側に痛み、腫れ、皮下出血が認められる場合は「脱臼骨折」を疑います。これは、バレーボールやバスケットボール

ルを指の手のひら側ではじいた際などに受傷し剥離骨折を伴います。骨片の大きさによりギブス治療するか手術治療するかを判断します。

「いずれにしても、「つき指」をしたらすみやかに整形外科医による適切な診断を受けることが大切です。」

長谷部 また、適切な早期治療と同様にギブスや手術後のリハビリも大切です。リハビリが不足すると指が固くなったり、そのままになってしまいます。治療をしてもなかなか指の症状が取れない方も、あきらめずにもう一度、整形外科医を訪れてみてください。

●マレットフィンガー

症状



病態

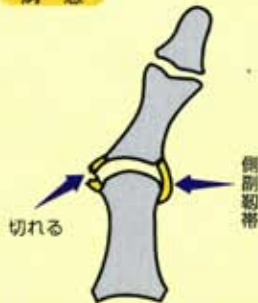


●側副靭帯損傷

症状



病態



●脱臼骨折

症状



病態



●治療●

ギブス・手術・リハビリ  
すぐに整形外科医の治療を受けよう!!

取材協力

日曜診療  
整形外科 はせべ医院

●診療時間 9:00~12:00 / 15:00~18:00

●休診日 木曜午後、金曜、祝日

高崎市井野町983 (駐車場50台完備)

TEL.027(361)0177

